

“My Unfathomable Joy of Doing Roundabout Translation Works.”

—The delightful detour of the Translation—

翻訳の楽しい回り道

Major contents 主な内容

My struggle with the title

タイトルの英訳までの奮闘

“Hamlet” written by Shakespeare

シェイクスピアの「ハムレット」から

“To be or not to be, that is the question”

この名言をどう訳すしますか？

Is this the most excellent (absurd) translation?

名訳中の名(迷)訳？

— やったろか〜、あかんか〜、ほな〜、どないしょ〜。 —



Kronborg Castle in Denmark (2010)

Translation may surpass the original work.

原作を越える翻訳も

Pippa's Song Robert Browning

春の朝 上田敏 訳

How do you translate “I love you.” ?

あなたなら “I love you.” ?をどう訳しますか？



“While I am sleeping I have magicians working in my pillow! “

翻訳——寝ている間に仕事が進む魔法の枕！？

How difficult it is to translate a language to Japanese!

外国人が自国語を日本語に訳す場合の難しさ



June bride in Russia (2011)

Tokyo Omotenashi Volunteer Guide

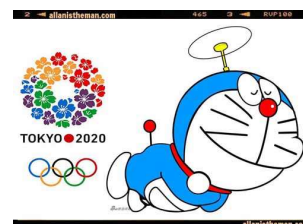
東京都おもてなし観光ボランティア活動報告

Improvement of instrument will be unavoidable.

翻訳機が進歩しても器械はやはり器械

You will have many chances.!”

英語の世界はますます広がる！



翻訳の楽しい回り道

皆さんこんにちは。今日はお話の機会をいただきありがとうございます。最初に講演のタイトルについて少しお話させていただきます。——「翻訳の楽しい回り道」——

タイトルをつけるまでの奮闘

「翻訳」なんてプロみたいな言葉を使っていますが、私は仕事としての翻訳はほとんどしたことがありませんし、複雑で深い意味を含んだ日本語を正確な英語に翻訳できるような力也没有ありません。

でも、これまで世界の文学作品の舞台を訪ねたりポートやエッセイを必要に応じ英語やスペイン語に翻訳して自分のホームページに載せたり、またこの場でもお話しさせていただいたこともあります。ちょうど1年前にもこの会場で「名作の舞台を訪ねて」をバイリンガルで講演させていただきました。

ふだん友達と話す英語は仮に少し間違っても許されると思うのですが、ホームページなど活字になって不特定多数の人の目に触れたり、多くの方の前で話す場合は、やはり正確な英語が求められます。そのためにはネイティブチェックが必要になってきます。

一方、英語から日本語への翻訳の場合は、日本語の使い方については、こちらがネイティブだから基本的には問題ありませんね。

実は、今回、講演のお話を電話でいただいたのが急だったので、あわてて思いついたタイトルがホームページ2月のエッセイ「翻訳の楽しい回り道」でした。これなら、英語に携わっていらっしゃる、または英語の勉強をしていらっしゃる方にも、面白く参考になることがあるかもしれない、と思ったのでこのような日本語タイトルをつけた次第です。

その後すぐに「英語のタイトルも一緒をお願いします」と言われ、いろんな英訳を考えてみたのですがどうもしっくりきません。抽象的な「回り道」の訳し方が難しい。時間も少なく少々難儀をしていたところ薄衣先生が助け船を出してくださった。メールで提案してくださった英訳は次のようなものでした。

“My Unfathomable Joy of Doing Roundabout Translation Works.”

難しいあまり慣れない言葉があります。

Unfathomable : 底知れないとか計り知れない、といった意味。

Roundabout : 回り道の意味です。

文全体では「回り道をしながらの翻訳作業には計り知れない楽しみがあります」といった感じになるでしょうか。

その下に小さくあるのはその後、私がタイトルを短くしてみたものです。

シェイクスピアの「ハムレット」から

さて、本題に入りたいと思います。

昨年11月、昭島市の稲門会(早稲田の校友の集い)の総会でシェイクスピアとセルバンテスについて講演をしました。

昨年はこの世界的文豪二人の没後ちょうど 400 年という節目に当たりました。日本では、夏目漱石没後 100 年でした。よく、シェイクスピアは英文学の原点、セルバンテスはスペイン文学の原点と言われてきました。奇しくもその二人が今から 400 年前の 1616 年に亡くなったんですね。

7 年前の 2010 年 6 月の初旬。私はそのシェイクスピアの作品のなかで最もよく知られた「ハムレット」の舞台を訪ねました。

デンマークの首都コペンハーゲン中央駅から列車で北上すること約 50 分、ヘルシンゴー一駅に到着。車窓の両側には菜の花畑の黄色と麦畑の青さが遠くまで広がっています。国土の 60% が耕作可能という豊かなデンマークの農業事情を映し出しているようでした。

ストーリーはご存知の方も多いと思うのですが、念のためにあらすじをおさらいしてみますと：

デンマーク王が急死する。王の弟クローディアスは王妃と結婚し、デンマーク王の座に就く。父王の死と母の早い再婚とで憂いに沈む王子ハムレットは、父の亡霊が夜な夜なクロンボー（エルシノア）城の城壁に現れるという話を聞く。亡霊に会ったハムレットは、実は父の死はクローディアスによる毒殺だったと告げられる。

（レジュメのページにクロンボー城の写真があります。1 週間前に皇太子殿下が訪問されています）

復讐を誓ったハムレットは狂気を装う。王と王妃はその変貌ぶりに憂慮するが、宰相ローニウスは、その原因を娘オフィーリアへの実らぬ恋ゆえだと察する。父の命令で探りを入れるオフィーリアを、ハムレットは無下に扱う。

ハムレットの存在に危険を感じた王はレアティーズと結託し、毒剣と毒入りの酒を用意して、ハムレットを剣術試合に招き、秘かに殺そうとする。だが試合のさなか、王妃が毒入りとは知らずに酒を飲んで死に、ハムレットとレアティーズとも試合中に毒剣で傷を負う。死にゆくレアティーズから真相を聞かされたハムレットは、王を殺して復讐を果たした後、死んでいく……といった内容ですね。

シェイクスピアの『ハムレット』は、その主人公の性格や発した言葉の解釈について、長い文学史のなかで、最も論議された、最も魅力的な人物の一人でしょう。

とりわけ人口に膾炙している言葉は、第三幕第一場に出てくる”To be or not to be, that is the question!” でしょう。

英語を勉強した人だったらそれほど難しい文ではないですよ。でも奥の深い世界的な文学作品。特に前半部分をどう訳すか、明治時代以降、多くの日本人が悩んだようです。

いろいろな訳され方をしてきましたが、最も受け入れられている訳は、「生きるべきか死ぬべきか（あるいは、「生か、死か」）それが問題だ」だと思います。

中世の英語を翻訳できるような力には私にはありませんが、それでも再度、作品を読み、舞台の現場を訪れた自分としてはこの部分を次のように訳してみました。

「何が真実なのか、何が真実でないのか、それを究めるのが最重要課題である」

これは、父を殺した叔父に対する復讐を誓いながら、人間対人間の葛藤の中で、正義と真実を求めて懊悩するハムレットの生命からの叫びなのです。そしてこの重い言葉は、今を生きる私たちにも、人生のあるべき生き方とは何なのか、本当の正義とは何なのか、根本的な問いを投げかけているような気がするのです。

名訳中の名(迷)訳が出てきた？

こんなくそまじめな解釈を試してみた自分ですが、講演のための参考にとネットを見ていたら、これこそ名訳中の名(迷)訳かも、と思われる訳にぶつかりました。

それは大阪弁による日本語訳です。

— やったろか〜、あかんか〜、ほな〜、どないしょ〜。 —

これは、まさに紛れもない名訳です。父王の敵をとるというハムレットの深い悩みの心情を、非常によく表現できています。「自分はこの復讐をやってもいい？ それとも人殺しはいけない、禁じられているのかな？そんならどうしたらよいんだろう。どうしてよいかわからなくなってしまった」。

「that is the question.」は、他の和訳では、殆ど例外なく「それが問題だ」、またはその類似の言葉になっている。しかし、大阪弁では、「どないしょ〜」にした。これは、ハムレットの心情を読み取って、「that is the question.」を、「I'm at a loss what to do.」(一体どうすればよいのか途方に暮れている。)と解釈したからに他ならない。

なるほど、名訳中の名訳とも言われるゆえんでしょう。ハムレットの深い悲しみや苦悩をととてもよく表現しています。皆さまだったらどう訳されるのでしょうか？

原作をも越える翻訳

素晴らしい翻訳は原作を越えることさえあります。高校時代の国語の教科書に出てきた「ピパの詩」は英語の原作も素晴らしいですが、翻訳の素晴らしさで今も私の心に残っています。

Pippa's Song

Robert Browning

The year's at the spring
And day's at the morn;
Morning's at seven;
The hill-side's dew-pearled;
The lark's on the wing;
The snail's on the thorn;
God's in his heaven —
All's right with the world!

春の朝

上田敏

時は春、
日は朝(あした)、
朝(あした)は七時、
片岡(かたをか)に露みちて、
揚雲雀(あげひばり)なのりいで、
蝸牛(かたつむり)枝に這(は)ひ、
神、そらに知ろしめす。
すべて世は事も無し。

日本語訳の切れ味のよさ、快活さ、瑞々しさ、そして安定感・・・暗唱していると心まで満たされ、落ち着き、爽快になってくるでしょう。

“I love you”をどう訳しますか？

それではここで誰でもできると思われる易しい英語の訳に挑戦してみましょう。
もっとも身近な愛の言葉：**I love you.** これを皆さんだったらどう訳されるでしょうか。

「私はあなたを愛しています」——もちろん入試問題では正解ですね。文法的にも合っている。でも面白くない。つまらない。愛する当事者間でも、今どきはこんな硬い言葉は使わないでしょう。文学作品であればなおさらですね。

すぐに思いつく言葉ではこんなものが浮かんできます。

「愛してるわ (の)」「好きよ」「好きなの」「あなたに首ったけよ」「私はあなたのものよ」「もうどうなってもいいわ」・・・女性側の言葉ですがまだいくらでもありますね。

男性側ではもう古典的ともなったかもしれない「僕のパンツ洗ってくれますか?」「キミを食べてしまいたい」などまである。皆さまは愛する人にどう伝えたでしょうか。

ものの本によるとロシアのツルゲネーフは、これを「死んでもいい」と訳したといえます。(ロシアといえば、レジュメにある写真はモスクワ大学前の森の新婚カップルです。ハンサムな彼が純白のジューンブライドに向かって花束。どんな愛の言葉を告げているのでしょうか)

そしてロンドンに留学した夏目漱石は、これを男性側の言葉として「月がきれいですね」と訳した。これについて「あなたが月のようにきれいだ」とか「あなたと見る月がきれいだ」などと、いろんな解説が付いたようです

つい少し前に終わったNHKの朝ドラ「とと姉ちゃん」にも出てきました。主人公・常子に思いを寄せていた大学生が自分の思いを伝えるのに「月がきれいですね」と言った。それを文学好きな妹の鞠子が聞いて「それって I love you.のことなのよ」と常子に解説していたのを思い出します。

さて今日の講演を聴いてくださった皆さま。「I love you」の日本語訳は？——宿題としましょう。

寝ている間に仕事が進む魔法の枕！

話は変わって、以下は翻訳のネイティブチェックに関するエピソードです。

私はちょうど10年前にホームページを立ち上げました。すると、知り合いの外国人の友人から「自分たちも書かれているものを読みたい」との希望が寄せられてきたのです。そこで、それぞれの言語圏や文化にも共通し、興味深く読まれそうなテーマに絞って自分で翻訳を始めました。とはいえ、翻訳に自信があるわけではなく、第三者のチェックが必要です。そしてチェックはネイティブが理想なのです。私も日本国内に多くの外国人の

友人がいますが、それぞれ忙しい立場にありチェックを頼むのには気が引けます。

そうこうしているなか、なんと「記事を読みたい」と言った海外の友人自身が翻訳のチェックを申し出てくれたのです。英語はアメリカに住むKさん、スペイン語はパナマに住むMさんでした。

Kさんは横田基地で知り合った元米軍将校でお医者さん（小児科医）、Mさんは私が新聞のパナマ特派員だった当時の友人で、元獣医で現在はパナマSGI（創価学会インタナショナル）の機関誌の編集に携わっています。

これをもう一步広げて考えていくと、アメリカでもパナマでも、そこに住んでいる人はいわば誰でもが、つまり 100 パーセント近くがネイティブであるというわけです。

こうして、翻訳した原稿をその日の夜、メールに添付して送っておくと、時差の関係で向こうは昼間、早いときには翌朝には私のパソコンにチェックされた原稿が戻っています。こちらが寝ている間に仕事は進んでいるのです。

ベストセラーとなった「フラット化する世界」(トーマス・フリードマン著)では次のように言っています。

パソコンによる仕事が、インターネットを使いアメリカからインドへ、インドからイギリスへ、そしてまたイギリスからアメリカへと送られ、地球の昼時間を追っかけて進んでいる。つまりそれぞれの国の人々は仕事が終わって眠っていても、リレーされたその作業は24時間どこかの国で続いていると述べています。

40年前、私が特派員としてパナマに赴任したころは、メールはおろかファクスさえありませんでした。日本語もローマ字で打ちながらのテレックスによる交信でした。すごい時代に入ったものですね！

「私は枕元に眠っている間に仕事が進む魔法使いを持っている」というわけです。時代の最先端のご紹介です。このスピーチの英語原稿もアメリカ人の友人Kさんにチェックしてもらったものです。

外国人が日本語に訳す場合の難しさ

ここで逆に、外国人が自分の国の言葉を日本語に翻訳する場合を想定してみましょう。私は先のKさんから日本語に訳した原稿のチェックを依頼されたことがあります。比較的易しい内容の短い原稿だったので、そんなに誤りや直す箇所は無かったのですが、この機会に改めて日本語を学ぶ外国人が直面する難しさに気がついた次第です。

ご存知のように、日本語には 3 種類の文字があります。ひらがな、カタカナ、漢字ですね。ひらがな、カタカナともに 50 字ですが、漢字となると、普通に社会生活をできるために知っておく文字は 2000 字近くになります。これらの文字を記憶するには、大変な努力と時間が必要です。

そして何か言ったり、書いたりするときには、話し相手や状況に最も合う言葉を探さなければならないということなのです。というのも、日本の社会では、へりくだった謙譲の表現が要求されるからです。

例えば：自分自身を表現するのに、10 近くの言い方があります(黒板に日本語とローマ字 読みを書く) 私(わたくし、わたし、あたし)、僕、俺、我、ウチ、手前、小生、等々。「わたくし」はより 丁寧で上質の表現です。「わたし」は比較的丁寧な表現で、最も一般的に使われています。「あたし」は舞台や歌謡の世界で少し甘えたような場合に使われることがある。

。「僕」「俺」「我」ともに男性が使用。このうち、「僕」はより口語的で、「俺」はやや丁寧さを欠き、「我」はやや古い表現です。「ウチ」は両性によって使われます。「手前」もへりくだった古い表現。「小生」は主に手紙や書き物の中で、やはり、へりくだった表現として使われます。

繰り返しますが、日本の社会で大事なものは「謙譲」の心なのです。これを良くわきまえないと、周りから「あいつは傲慢だ、頭が高い」「社会を知らない」と言われかねないのです。

英語では自分を表現する言葉は [I] の一語、スペイン語でも [Yo] の一つだけです。もちろん、英語の動詞や助動詞の使い方によって、丁寧の度合いを変えていくのもお互いに勉強してきていますが、日本語の丁寧語、謙譲語ほどの複雑さではないような気がします。

もう一つは物の数の数え方です。〈板書〉

1冊の本 a book, one book、2本の鉛筆 two pencils、3個の椅子 three chairs、4台のテレビ four TV or four television set、5枚の写真 five photos、five pictures 6頭の牛 six cattle, cows, oxen, bulls、7羽の鶏 seven chickens, seven hens、8匹の犬 eight dogs、9名の人 nine people

また英語では複数形に原則として[S]がつきますが、日本語の数詞ほど複雑ではないと思います。

文章を訳すことは文化を訳すこと——この意識が翻訳の大事なポイントの一つだと思います。

おもてなし語学ボランティア

私は今年76歳になり、いわゆる後期高齢者と呼ばれる年代に入りました。しかしながら幸いなことに、この4月からはとても刺激的で面白い活動が始まりました。

それは東京都観光ボランティアのスタッフの一人として新宿駅の近辺で来日外国人のアテンドやサポートをする活動です。最後に、この3ヶ月間にそこで聞いたり見たり感じたりした直近の話題をお伝えしたいと思います。

私の場合、基本的に毎週金曜日が活動可能日として事務局に報告しているのですが、今年度から希望者が増えなかなか担当が回ってきません。ということで現時点では1ヶ月1回の出動です。

控え室が4月は都庁内の観光センターでしたが、5月からは新宿駅南口に新しくできたバスタ3階にある東京都観光センターの一角。観光センターでは着物姿の日本女性5人ほどが外国人のアテンドをしていました。

ここでは一番印象の強かった日の様子をご報告してみます。2人1組のペアで私の相棒は、すでにボランティア経験3年というベテラン女性。ボランティア事務局で地図やiPadなど必要道具を受けとった後、「ボランティア」の文字の入ったシャツに可能言語と名前を書いた大きな名札を前につけ、「i」のマークの入ったハットをかぶり“出陣”です。任務は午後0時半から3時半まで休憩を入れて3時間です。

JR新宿駅南口の出口付近（バスタの向かい側）に立っていると、改めて外国人観光客の多いのに今さらながら気がつきました。日時にもよるでしょうが、金曜日の午後2時ころ、南口の広い道路を歩いている人の2～3割は外国人といった印象です。「シンジューク」は世界でもネットで有名になっていて訪問客が多いのかも知れません。

持ち場に着くとYさんは手慣れたもの。道に迷っていきそうな外国人にどんどん声をかけていきます。紙の地図に載っていない建物やホテルの場所を聞かれると、サッとiPadで調べて英語で案内します。初心者の私はそのお手伝い。

私たちがアテンドした外国人は、アメリカ、オーストラリア、イタリア、インドネシア、タイ、中国、台湾、デンマークなどから9組20数人。それに日本人の案内が2組でした。

初老の夫妻に「どちらからいらしたのですか？」と聞くとなんと「イスラエルから」と夫人。「今日着いたばかり。これから20日間、日本を回る。まず広島に行き京都、奈良、名古屋へとネ・・・親切な案内ありがとう」と夫が英語で続けました。

案内した行き先は、ふつうの地図には載っていない歌舞伎町近くのアパートホテルでした。

器械にはやはり限界がある

新宿駅近辺には三つ星、四つ星、五つ星の地図に載っているホテルがいっぱいあります。でも最近の外国人観光客は、もっと安い宿泊施設をネットで調べて予約してくる。ここでiPadの威力が発揮されるわけです。ドイツからの観光客は「卓球の練習がしたいけれど可能な場所がありますか？」なんて突っ込んだ要望もできました。

1日の乗降客が350万人という日本一の新宿駅。しかも新しい建物や施設で街が年々変化をしているなか、すぐに的確な対応をできるのには相当な経験が必要だろうな、と思ったところです。iPadもですが、近年の器械による翻訳技術の発達は素晴らしく、しゃべった日本語が即時に訳出され、また相手の外国語もすぐに日本語として帰ってきます。観光旅行では“必携の道具”みたいです。

ではもう英語、また他の外国語も含めて、勉強は不要また意味のないものなのでしょうか。そんなことはあり得ませんよね。現実に文科省は子供たちの英語力を高めようと今、必死に方策を打ち出しているし、ビジネスの現場でも語学に堪能な人の需要はますます高まっています。どんなに進歩しても器械には限界があります。

私もネットで「本格翻訳ソフト」なるものを購入して使ってみました。残念なこと

にいっぱい翻訳ミスがありました。この原稿も日本語から英訳を試みたのですが、出てきた訳は期待していたものよりはるかに質の劣るものでした。そこで私は辞書を引きながら単語やフレーズを自力で翻訳したところです。器械には限界がある。器械翻訳は早いけれども正確さにおいては人間の翻訳には叶わない。まだまだ改善が必要でしょう。

英語の需要はますます増える！

半世紀以上も前、まだ私が高校生だったころ先生から「将来的には世界共通語としてエスペラント語が使われるようになる！」と聞かされたことがありました。でも、NHKの英語番組でもユーモアある講義で人気の高い大杉正明氏が言っていました。

「かつてはエスペラントに期待がかかっていた。でも現在、エスペラントをできるのは世界でたった 30 万人だけなのです。一方で、ヨーロッパなどではドイツ語、スペイン語、フランス語、デンマーク語などが母国語の人々も、ビジネスでは英語を共通語として使う流れになってきています。アジアでも同じような流れになりつつある。英語の需要はますます増えてくるでしょうから皆さん頑張ってくださいね」と――

新宿駅周辺で案内した外国人は多様でした。フランス語、スペイン語、ドイツ語、アラビア語、タガログ語、韓国語（ハングル）、中国語など。でもその多くが英語を話そうとしていました。自分の国の言葉は日本では無理だろうけれど、英語だったら通ずる、と信じて来日している人が多いのです。

3年後のオリンピック・パラリンピックを考えても英語ができる日本人を増やしていくことが不可欠です。英語ができる人材の要求も増えており、これからもっと増えていくでしょう。未来にチャンスはいっぱいあります。この会場で英語に取り組んでいる皆さんもどうぞ夢を抱いて頑張ってください。

話が、翻訳からボランティア活動報告、と回り道をしてしまいましたが、皆さまの今後の英語の勉強に何かお役に立つことがあれば幸いです。長時間のご静聴ありがとうございました。